

創造・参加・実践
No.715

最新のJR西労組運動をチェックしよう!
JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)



「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」で登録!
@dzc0159s



西日本旅客鉄道労働組合
〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西 阪 急 ビ ル 9 階
TEL06-6375-9869(代) JR071-7155(代)
(FAX) 06-6373-4133 JR071-7151

発行責任者 上村 良成
編集責任者 田中 佑佳

労災死亡事故発生

2023年1月18日、山陽新幹線小倉～博多間、久山斜路において、レールテック協力会社社員が、停車中のトラックが動き出し、止めようとした際に巻き込まれ、死亡する労災事故が発生した。

今回の事象は、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の終了目前の発生であり、計画期間中で7件目の死亡労災となった。

我々が、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」に向け、さらに「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の目標達成に向け取り組んでいる中の死亡事故であり、痛恨の極みと言わざるを得ない。

2022年度の労働災害は、増加傾向であり、一歩間違えば死亡労災につながりかねない、待避不良等も連続して発生している。

12月27日には、山陽線(西広島～新井口駅間)において、踏切使用停止作業で列車接近時にロープ遮断ができなかった事象が発生するなど、危険な事象が連続して発生しており、これらの事態を深刻に受け止めなければならない。

自らの命、仲間の命を守るためには、どのような理由があっても、決められたルールや基本動作を遵守する風土を構築し、職場から安全を確立しなければならない。そして、職場の実態や意見を踏まえた、積極的な問題提起を行い、JR本体はもとより、グループ会社・協力会社を含め、さらに安全に対する感度を高め、責任組合としての「チェック・提言機能」を発揮することとする。

事故を忘れない取り組み 各地にて行われる

【米子地本発】

米子地方本部は、2006年に発生させた、伯備線触車事故から17年を迎えた1月24日、根雨構内にある安全碑にて、献花行動を行った。

例年、事故を経験していない組合員を中心に、本部や米子地本の役員が多数参列して、「献花式と安全の集い」を行っているが、大雪による天候不良の影響により急遽中止となり、地方本部役員のみで現地と



安全碑を訪れ、黙祷と献花を行った。

改めて、事故でお亡くなりになられた3名の御霊にご冥福をお祈りするとともに、更なる安全性向上に向けて取り組む決意を誓い合った。

【神戸地本発】

2001年に、山陽本線明石～朝霧駅間で発生した、触車死亡事故から22年が経過した1月24日、神戸地方本部は、中央本部とともに、現地において献花行動を行い、あらためて事故でお亡くなりになられた仲間のご冥福をお祈りした。



献花行動を行い、あらためて事故でお亡くなりになられた仲間のご冥福をお祈りした。

【京都地本発】

京都地方本部は、1月17日に、2008年に湖西線近江舞子駅で発生した、除雪作業員触車死亡事故の慰霊碑にて、中央本部と共に献花行動を行った。

事故でお亡くなりになられた、除雪作業員の方のご冥福をお祈りするとともに、除雪作業の危険性を再認識し、安全への誓いを新たにされた。

JR西労組は、引き続き各エリアで発生した過去の事故現場への慰霊行動などを通じて、事故を決して忘れず、心に刻み、安全を誓うことで風化させない取り組みを継続していく。



議事を満場一致で承認。団結ガンバロー



議長団に選出された須原委員(左)と山根委員(右)

勢を見せるべきであり、「年度初の基準昇給の完全実施」「ペーシングアップ3,000円」「年間臨給500円」を掲げ春闘交渉に臨むこと、また、JR西日本連合の中心となる立場として、J

2023春闘スタート!!

～第41回中央委員会にて春闘方針決定!～

安心と働きがい、魅力あるJR産業を構築するため
ペーシングアップ5000円年間臨給500円を掲げ、闘いに挑む!

JR西労組は、2月3日(金)、大阪リバーサイドホテルにおいて、「第41回中央委員会」を開催した。今年も、委員、来賓、執行部に加え3年ぶりの傍聴者など、約200名が参集した。

議長団に、神戸地本の須原委員と広島地本の山根委員を選出し、議事が進められた。来賓には、近畿交運協西村事務局長、交運共済西日本事業本部宮武係長、明治安田生命大阪公法人部高橋大阪

「二面に掲載」
特に、2023春闘について、「コロナ禍の3年、必死に耐えてきた組合員に対して、会社の姿勢を見せるべきであり、年度初の基準昇給の完全実施」「ペーシングアップ3,000円」「年間臨給500円」を掲げ春闘交渉に臨むこと、また、JR西日本連合の中心となる立場として、J

2023春闘要求を申し入れる!!
中央闘争委員会は、2月6日(月)、JR西労組第41回中央委員会にて決定した春闘要求を会社に申し入れた。

復しつあることから、第3四半期も黒字を確保している。
一方、「12月末にはコロナ前の9割程度に回復する」と想定していたが、下回っており、未だ第8波の影響が残っている。さらに、第4四半期に多くの費用が計上される経費構造であること

組織改正の交渉時に、継続議論となつた、「エリア手当」「巡回旅費」の考え方の整理や、一般的な労働者が就業していない、夜間に業務することに對する手当の増額を求める。

「上村中央闘争委員長」
第3四半期決算で3期ぶりの黒字転換を果たすことができたのは、組合員が必死にコスト削減や構造改革に協力してきた賜物である。

「池上賞金対策部長」
世の中の物価上昇から可処分所得が減少しており、資産を切り崩して対応するなど苦慮しており、ペーシングアップは必須である。

「本田副委員長」
第3四半期決算では、第7波の影響がありながらも、連結単体ともに黒字となった。

「池上賞金対策部長」
世の中の物価上昇から可処分所得が減少しており、資産を切り崩して対応するなど苦慮しており、ペーシングアップは必須である。

「会社」
第3四半期は黒字となったものの、コロナ前と比べて依然として厳しい経営状況が続いていることには変わりはない。処遇改善については、コロナの状況や業績の推移を見極めつつ、慎重に判断する必要がある。引き続き厳しい状況ではあるが、この難局を乗り越え、その先の持続的な成長に繋がるよう、建設的な議論をしていきたい」と述べた。